

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2018年 6月15日

事業ID: 2017445577

事業名: 兵庫県尼崎市における第三の居場所(C)
の整備

団体名: 特定非営利活動法人あっとすくーる

代表者名: 理事長 矢野 剛 印

TEL: 072-702-0020

事業完了日: 2018年 5月 31日

事業費総額	28,701,744円	(収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	11,744円	
助成金額	28,690,000円	(千円未満は切り捨て)
返還見込み額	0円	(収支計算書に記載する助成金返還見込額)

事業内容:

「家でも学校でもない第三の居場所」を整備し、子どもたちの社会的相続を補完する。同時に、貧困の連鎖に対する有効施策を特定する。

1. 事業目標の達成状況:

【申請時の目標】

2018年2月までに拠点の完成及び開設後の円滑な運営体制の構築を行う。

【目標の達成状況】

(1) 物件の選定について

立地: 阪神尼崎駅徒歩7分の住居施設
構造: 鉄筋コンクリート造り
面積: 約197.08㎡
賃貸料: 月額250,000円 管理費: 50,000円
用途: 事務所用だったため、用途変更の手続き必要

(2) 設備について

実施した工事 仮設工事/給排水配管工事/防災設備工事/空調設備工事/換気設備工事/電気設備工事/床造作工事/軽鉄ボード工事/建具工事/塗装工事/衛生設備工/造作家具工事/内装工事/証明器具工事等

(3) 人材について

人材確保について

- ① ハローワークを通じての求人掲載
- ② 求人掲載サイトを活用しての人材募集活動

研修

- ① 先行の拠点視察
- ② 家でも学校でもない第三の居場所開設自治体合同研修
- ③ 衛生管理、防火管理者等の研修
- ④ スタッフ研修

(4) 運営準備について

関係機関の周知に向けて

- ① 説明資料の作成
- ② 尼崎市担当課との調整
- ③ チラシ等広報物の作成

利用開始に向けて

- ① マニュアル(感染症、緊急対応、防災等)の作成
- ② 活動保険の選定
- ③ 備品等の選定
- ④ 契約書等作成、フェイスシート、アセスメントシート作成

2. 事業実施によって得られた成果:

(1) 物件の選定について

・駅に近いワンフロアのテナントが見つかり、オーナーからの理解を得られ内装に関しては自由に作ることができた。

(2) 設備について

・面積の関係から用途変更が必要になったが、用途変更も無事に行うことができた

(3) 人材について

- ・人材確保については、ハローワークや、求人掲載サイトから8名、知人からの紹介から2名の問い合わせがあり、そこから3名の採用を行った
- ・研修に関しては、先行事例である、箕面への視察と開設自治体合同研修に施設長が参加し、運営についてのノウハウ等を得ることができた。
- ・運営において必要な防火管理者研修などを受講し、安全な運営体制を整えた。
- ・スタッフ研修は研修内容を検討し、以下の研修プログラムを受講した。

	項目	内容
1	オリエンテーション	アイスブレイク、受講者自己紹介、研修内容の説明 子どもの家事業についての説明
2	様々な背景・特性をもつ子どもたち	子どもたちの様々な背景と課題について（障がい特性、子どもの感覚、虐待・愛着障がい、貧困について）
3	不登校の理解	不登校・ひきこもり・非行の背景や状況、社会資源、個々の課題やつまずきについて *後半の30分で子どもたちとの関わるために必要なステップ（知る、安心、信頼関係成長）のワークショップ
4	子どものほめ方、叱り方、伝え方	「認める」「褒める」「注意する」等、子どもとの関わり方（ペアレント・トレーニング）子どもにとってわかりやすい・伝えやすい伝え方（コミュニケーションの取り方）を学ぶ
5	集団支援、SST	子どもたちにとっての「集団」、SSTとは何か、みらいずの行う集団支援について学ぶ
6	ロールプレイ	検討事例とロールプレイを通して、子どもと関わる姿勢やコミュニケーションの取り方について学び検討する
7	支援者の心得	個人情報とは何か、子どもと関わる上で気をつけるべき個人情報について支援者としてのマナーとは何か、なぜ必要なのかを学ぶ
8	個別支援計画について	個別のアセスメントと支援計画の立て方について
9	振り返り	振り返りシートの記入、全体共有

(4) 運営準備について

① 説明資料の作成について

尼崎市には拠点点が3箇所あるため、3団体で説明資料等の調整会議を行い、別紙資料を作成した。

② 尼崎市担当課との調整

尼崎市担当窓口となる「尼崎市こども青少年本部事務局こども青少年部こども政策課」との会議を行った。その後、電話やメール等を通じて関係機関への周知についてや連携のあり方について協議を行った。校区となる2小学校への訪問も担当課で行った。

④ チラシ等広報物の作成

関係機関へのチラシを作成し、（一社）Collective for Childrenへの事業説明を行い、チラシの発送を協力いただく。また生活保護家庭への郵送物に各拠点のチラシを同封してもらうこととなった。行政から関係機関への説明とチラシによる広報をしてもらった。

3. 成功したこととその要因

(1) 物件の選定について

阪神尼崎駅周辺に物件を満たす空きテナントが多数あり、当物件はオーナーの方の理解もあり、工事をスムーズに進めることができた。

(2) 設備について

デザイナーの方や、施工業者の方と相談しながら空間のデザインを行うことで、子どもたちが楽しむことができる設備や、安心して過ごせるスペースを作ることができた。

デザイナーの方や、施工業者の方が、当事業への理解もあり、子どもが使いやすい空間づくりのためのアイデアや提案をたくさん頂くことができた。

(3) 人材について

知人の紹介で、以前から当法人の活動に理解を示してくださっていた方を採用することができた。また、求人掲載サイトやハローワークから普段接点のない幅広い世代の人材とも出会うことができた。

研修については、尼崎市内で事業を行う3団体で研修内容を検討し、ノウハウを持っている他団体研修メニューと一緒に受講することができた。

(4) 運営準備について

尼崎市内で3拠点できるため、3団体で協議しながら進めることができた。また尼崎市内で(一社)Collective for Childrenの取り組みが進んでいたため、連携して事業を進めることができた。尼崎市長をはじめ、担当課も事業への理解と協力を得ることができたため、関係機関への周知なども協力して進めることができた。

4.失敗したこととその要因

(1)物件の選定について

・用途変更が必要な物件であり、オーナー、管理会社から書類の提出が遅れる等のトラブルもあり工事着工が遅れてしまった。

(2)設備について

・ネット回線の工事において、契約先の企業とのコミュニケーションの不備があり、大幅に着工が遅れた

・窓などが比較的少ない物件だったため用途変更の際に想定していた工事と、多少の変更が生じた。

(3)人材について

関心を持ってもらい、問い合わせまでは至るが、勤務時間が夜までであることで勤務可能な人材が限定された。また、高齢の方からの問い合わせが多く、こどもと関わる上での体力等の部分で採用が難しい方も多くいた。

事業成果物:

①拠点 (内部写真)

②研修資料

③レイアウト図

(様式)

2/2

収支計算書
(2017年11月01日から2018年5月31日まで)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	受入済額 (C)	助成金 未調達額 (D = A-C)	助成金 返還見込額 (E = A-B)
日本財団助成金収入	28,690,000	28,690,000	28,690,000	0	0
自己負担	0	11,744	11,744	-	-
収入合計	28,690,000	28,701,744	28,701,744	0	0

支出の部

(単位:円)

科目	予算額 (a)	決算額 (b)	支出済額 (c)	未払額 (d = b-c)
工事費	21180000	21,414,010	21,414,010	0
備品費	3136000	3,486,857	3,405,148	81,709
スタッフ募集費	200000	250,000	250,000	0
賃貸初期費用	2102000	1,835,820	1,835,820	0
通信費	192000	820	820	0
広告宣伝費	60000	37,800	37,800	0
旅費交通費	80000	26,386	26,386	0
人件費	1700000	1,593,831	1,593,831	0
研修費	40,000	46,500	46,500	0
支払い手数料	0	9,720	9,720	0
支出合計	28,690,000	28,701,744	28,620,035	81,709